

競技要項（大会特別規定）

- 第1項 ベンチは若番が一塁側、ロージンは後攻チーム、ボールボーイは両チーム2名とする。（ボールボーイは原則ベンチ入り選手とする）
- 第2項 初級中級審判員は、別紙対戦表に明記された審判を原則とし、不都合がある場合は各リーグで協議し、必ず大会審判長の了承を得ること。
- 第3項 各球場のグランドルールは、試合開始前に各会場の責任審判員により説明を行う。
- 第4項 本大会はリーグ戦を採用し、全チーム総当たり戦を行う。（リーグ戦の競技詳解については別添参照）
- 第5項 試合は7回または2時間制とし、5回をもって試合成立とする。（5回までは2時間超ても試合を行う）なお、試合成立後の延長戦は行わず、即タイブレイク（最大3回：1アウト満塁）を行い、それでも同点の場合は勝敗抽選を行わない（引き分けで処理する）
- 第6項 4回10点差および5回以降7点差もってコールドゲームとする。
- 第7項 メンバー交換は前試合4回終了後、大会本部が指定する場所にて、監督・代表選手1名が集合し、所定のメンバー表（5部）を提出し、担当審判員並びにリーグ役員立ち会いのもと先攻後攻を決定する。
- 第8項 試合前のシートノックは7分間とし、ノック時のボールボーイは必ずヘルメットを着用する。
なお、天候によってはサイドノックに変更する場合もある。（原則、各補助員は登録選手に限る）
シートノックを行う場合は、サイドノックを行うことを禁ずる。
- 第9項 試合前にノックやトスバッティングを行うことを禁止する。但し、外野フィールドにおいては、アップシューズ着用に限り（土でも芝生でも）、アップやキャッチボールを認める。
- 第10項 次試合チームの先発バッテリー1組に限り、メンバー表交換後、ブルペンに入って投球練習を行うことが出来る。（但し、ブルペン入場は、試合進行を妨げないよう細心の注意を払うこと）
- 第11項 ブルペン捕手は、スタンディングの場合であっても必ず防具を着用（特にキャッチ面）し、捕手の安全を守る保護選手を1名帯同させること。（保護選手も必ずヘルメットを着用すること）
- 第12項 監督指示により捕手がタイムを取る行為はタイムカウントとして数えないが、遅延行為など試合進行に支障があると判断した場合は、1回のみ警告を行い、2回目からはタイムとしてカウントする。

その他の注意事項

- 各チームは、会場到着後、速やかに大会運営本部が指定する受付手続きを行うこと。
- 各チームは、当日の試合が全て終了し、会場を退出する際は、大会運営本部が指定する退場手続きを行い、「次回指示書」を受け取ること。
- 各チームの放送係は、第1試合の試合開始40分前までに必ず名札を付けて待機しておくこと。
- 審判へのお茶出しのアナウンスは行わない。（4回終了後のメンバー表交換のアナウンスは行う）
- 試合成績表の記録者は、名札を付け予備球を持って記録室に入室のこと。
- 各チーム応援団は、鳴り物やメガホン2本を叩いたり、球場器物を叩いての応援を禁止する。
- 本大会は関西連盟が指定するソーシャルディスタンスに定められた規程を遵守し、大会中に関係者に感染等の疑い事例が生じた際は、中国支部が定める大会運営ガイドラインの規定に沿って、速やかに情報共有を図ること。

リーグ戦における競技要項の詳解

秋季リーグ戦、競技要項第4項については、下表のとおり行う。

試合成立	5回完了
正式試合	7回
勝ち点制	4回コールド（5点）5回コールド（4点）勝（3点）引分（1点）負（0点）
リーグ順位	勝数 > 勝点 > 少失点 > 得失点差 > 多得点 > 直接対決で勝利 > <u>本部抽選</u>
本戦枠順位	得失点率 > 失点率 > 得点率 > <u>本部抽選</u> ※得失点率（得点率 - 失点率）失点率（総失点 ÷ 総守備イニング）得点率（総得点 ÷ 総攻撃イニング）
棄権試合	大会中に棄権した場合、対戦相手は7-0の5回コールド勝ちとする（4点加算）
投球回数制限	あり（上限到達選手は、捕手への交代も制限）
時間制	あり（2時間制）
コールド	あり（4回：10点差、5回以降：7点差）
延長戦	なし
タイブレイク	あり（1アウト満塁：最大3イニング）
抽選決着	なし（引き分けで処理）
審判	本部1名、各チームから1～2名ずつ派遣
禁止事項	一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム ※全て原則

上表の詳解については下記のとおり。

試合成立ならびに正式試合

試合は7イニングまで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合は例外とする。

- 1 試合成立（5回完了）までは、2時間を超えて試合を行います。
- 2 後攻チームがリードしたまま攻撃中に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

コールドゲーム

4回10点差 または 5回以降7点差。（大会中に棄権した場合、対戦相手は7-0の5回コールド勝ちとする。）

※勝ち点ポイントは4点加算

タイブレイク

試合開始から 2 時間または 7 回を終了し、同点の場合は次の回から最大 3 回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ タイブレイク戦は正式試合終了後、同点の場合は必ず適用します。（2 時間超えていても必ず実施）
例：5 回終了後、2 時間を経過し同点の場合は、6 回から最大 3 回タイブレイク戦を行う。
6 回終了後、2 時間を経過し同点の場合は、7 回から最大 3 回タイブレイク戦を行う。
7 回終了後、同点の場合は、8 回から最大 3 回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中に 2 時間を経過しても、途中で打ち切りません。
- ・ 最大 3 イニングのタイブレイク戦を戦い、それでも同点の場合は勝敗抽選等を行わず、両チーム引き分けで処理すること（両チームに加点 1）

サスペンデットゲーム（特別継続試合）について

降雨及び日没などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

適用するケース

- ・ 試合が成立する前（5 回完了する前）に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7 回を完了するまでに、残り時間がある場合。

特別継続試合のルール

- ① 中止となった元の状態から継続するため、元の試合で交代した選手は出場できない。
- ② 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- ③ 投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）
- ④ 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で 2 時間とする。
- ⑤ 特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注 1) 特別継続試合は、原則として、翌日の第一試合に割り当てられます。

注 2) 試合成立後（5 回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません。

注 3) 試合成立後（5 回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

※タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、引き分けで処理するものとする。
(その時点の加点やリードなどは一切反映されない)

注 4) 試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）